放射線科この一年

放射線科技師長　　前川　勝志

【はじめに】

４月１日付けで河野が主任となった.

平成１１年４月以降,技師１０名体制で業務を行ってきたが,４月から卒後６年目の加藤技師が新たに加わり１１名体制となった.加藤技師は千葉主任,岩渕技師の後輩であり実習を当院で行い数々のエピソードを残しており,放射線科唯一の独身男性でもある.河野主任と加藤技師の活躍に期待している.

また,今年は国の二次補正予算「地域医療再生」計画で,上川北部医療圏中枢の当院に数十億の補助金が.... で盛り上がったが政権交代によって残念な結果で終わってしまった.

【業務について】

平成２１年１２月時点でCTは連石,MRは千葉,RIは小野,AGは田村がそれぞれ担当した.

４月より当院もDPCに移行し,外来業務の増加が予想され,午前中の業務延長が予測されシフト変更も考慮したが,現実的には思ったほど著しい業務量のシフトは無く従来どおりの時間ローテーションを維持している.

入院撮影件数はDPC導入前後で大きな変化はほとんど見られなかった.ただRI件数だけは導入当時から３０％ほど減少したが,必要な検査であるためその後は序々に増加している.

血管撮影は毎日午前枠を増やしたにも関わらず時間内に検査が終わらない日も多い,急患対応も含めて,一日６件という日も珍しくはない.地域住民の高齢化と近隣の施設状況からみると検査件数が減少するとは思えない．また心臓ＣＴなど血管系のＣＴ検査は相変わらず多く,常に１名がワークステーションに向かい画像処理を行っており,さらにＣＴ担当者の連石がほとんど毎日時間外でも画像処理を行っている．ワークステーションの処理能力が足りなく更新が必要になってきている.

病院機能評価受診でマニュアルの見直し追われた年でもあった.機能評価では特に医療機器管理,整備,点検が重視される内容となった.

２２年４月からデジタル加算が廃止され電子加算に移行するため,各施設ではフィルムレスに移行している．そのため,フィルムではなく,CDで画像を持ち込ケースが増加し,サーバーに取り込む作業が増加している.

H21年撮影人数

ＣＲ	28,202	ＴＶ	1,158	ＣＴ	12,935
ＭＲ	4,212	ＡＧ	892	ＲＩ	897

【機器の整備・更新について】

昨年の１２月に核医学装置を更新した,今年の更新は６年目に入った血管造影装置でイメージインテンシファィヤの経年変化のため輝度が落ち,ガイドワイヤー,マイクロカテ等が透視で見えにくくなってきているとのため,またＸ線管球の出力が限界に来ているためフラットパネルに交換する予定だったが,価格の問題で５月同じSEMENS社装置に入れ替えを行った.

放射線機器は平成４年に導入したものが一般撮影装置も含めて６台使用されている.いずれも修理や交換部品の調達が難しくなってきている.

【今後の展望】

病院の財政状況もあるが大型医療機器は計画的に順次更新していかなければならない.
今年は一般撮影,外科用イメージ,動画サーバ,手術室ポータブルを更新していきたい.

２２年度,士別市立病院との画像ネットワークを計画していたが,士別市立病院のPACS導入が遅れそうであり２３年度になりそうである．しかし,士別市立病院からのCDによる患者画像データ量は多く取り込み件数も多く,CT,MRIデータだけでもオンライン接続を行いたい.